

【クレーム情報】

フロック加工布のパイル脱落

先月号では、ベロア調素材のパイル織物のパイルが脱落した事例を紹介しました。今回は、もう一つのベロア調素材であるフロック加工布のパイル脱落を紹介します。

■事故の状態

全体各所に白く、穴が開いたような状態が発生しているとお客様から申し出があった。
穴が開いたように見えている部分は、フロックが脱落し、接着樹脂および基布が露出した状態になっている。

■原因

確認はできないが、フロック加工に使われている接着樹脂の経時劣化などが原因となり、クリーニングの物理的な作用などにより脱落した可能性が推定される。

■事故の防止対策

フロック加工に使われている接着剤の

劣化などが原因となるため、抜本的な防止対策はない。

クリーニングでの受付時には、ズボンであればウエストまわり、裾まわり、ポケット口、ファスナー付近、上衣であれば衿端、袖口、肘、裾まわりなど、着用中に摩擦を受けやすい部分のパイルの状態を十分に点検すること。さらに、利用者には接着剤の劣化などによりパイルが脱落する可能性があることを説明し、了解を得た上で処理することが必要。

特に購入後2年以上を経過している製品は、接着剤が劣化していることを前提にして対応することが望ましい。

■フロック加工

フロック加工とは、接着剤（バインダー）を塗布した織物やニットの基布の

表面に、短く切断した繊維（フロック）を静電気や機械的振動などを使って直立させた状態で植毛する加工のことで、基布、接着部分、パイル部分の3層構造になっている。

基布の全面にパイルを植毛するフロックコーティング加工と部分的な植毛で柄を作るフロックプリント加工がある。フロック加工の接着剤は、アクリル系樹脂を主体としたものが多く、ドライクリーニング溶剤に軟化、膨潤しやすい性質がある。

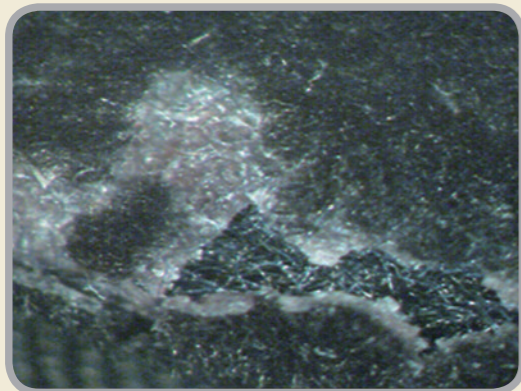
接着の強度や耐久性などは接着剤の種類、加工方法などによって異なることや、劣化の程度を簡単に判断する方法がないことなどから、フロック加工製品については脱落する可能性があることを前提にして対応することが望ましいものと考ええる。



写真1 婦人用ジャケット



写真2 各所、パイルが脱落して基布が露出したため、穴が開いたように見えている



顕微鏡写真
パイルが脱落し、接着樹脂および基布が露出している

- 品名…婦人用ジャケット
- 素材…基布にポリエステルニット、パイルにレーヨンを使用したフロック加工布
- 取扱い絵表示…
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、加熱静止乾燥